

紀今本神代紀傍訓及類聚名義抄合萬葉集亦云阿乎宇奈波良作奈似是

〔類聚名義抄〕水五音改海和カイウミ彙古

〔和漢三才圖會〕水五十五音改海音改溟渤 於保岐字三 滄溟 阿乎字三波良

釋名云海晦也主承穢濁其水黑如晦說文云海以納百川者也莊子云水莫大於海萬川歸之而不盈

古今わたつ海の波の千里や霞らんやかぬ鹽屋にたつ煙哉

中務親王

海水常無増減華嚴經云大海有四熾燃光明大寶其性極熱常能歡縮百川所流大水是故天雨常降萬川流入而大海無有増減

〔東雅地輿〕海ウミ 太古の時にアマト云ひしは即海なり天もと呼びてアメといひしを其語轉

じてアマともいへば其代にアマといひし語天と海と相混せし事ども多かりき古語にアマとと相混ぜしといふはたとへば垂仁天皇の御代に來れりといふ新羅王の子と云ふもの名古事記には天之日矛と見え日本紀には天日槍と見え姓氏錄には天日杵と見えて其記せし所各異なりといへども天之字讀てアマと見え皆同じ古語拾遺には海檜槍とあるし如きは此書は殊更に舊説を録して奏上せしなれば是る所必誤るべからず此等の事の如きは我國の古書を讀む人のウミといひしことば轉じてアマといひ又ワタなど云ひし如きは古の方言同じからぬによりしにやウミと云ふは大水なり古語に大をウといひけり舊事紀日本紀等に大人の字讀てウシといひ萬葉集に大鹿の字ウカと讀むが如き即此なりワタの義は不詳海の俗ハタヒといふなり并にこれワタの轉語なり秦姓をハタといふは百濟の方言なり今も朝鮮などいふワタツミと云ひしはワタとウミとの二語を合はせいふツといひしは詞助なりワタラといふは猶海又オキウミオキツウミなどいひしは大海なり日本紀に溟渤の字讀てヲキウミといふが如し

さらばヲキツウミといひしは瀛海なり其のツと云ひし是も亦語助なり
〔倭訓栞〕前編四うみ 海をいふ全水の義にや又産の義魚鰕珍恠を錯り出すよりいふといへり